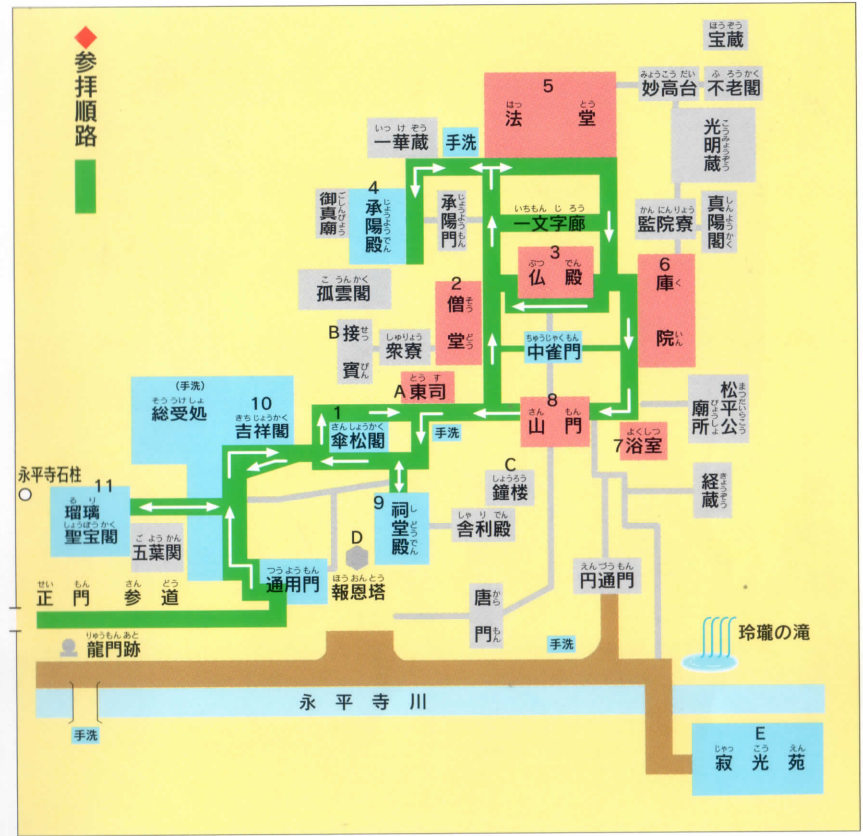


曹洞宗大本山

永平寺



お参りの皆様へ

- 一、参拝は身心を整え左側通行で静かにお参りください。
- 一、鐘や太鼓などの鳴らし物には手を触れないでください。
- 一、修行僧には直接カメラを向けないでください。
- 一、酒類に酔って他人に迷惑をかけるないように願います。
- 一、タバコは定められた喫煙所でお願います。
- 一、携帯電話は着信音の鳴らない状態で持ちください。
- 一、廊下の外、建物の外には出ない様お願いします。

発行
大本山永平寺
福井県吉田郡
永平寺町志比
電話
(0776)63-3102
印刷
ヨシタ印刷株式会社

禁無断転載

この冊子は環境にやさしい「水なし印刷」「植物性大豆油インキ」「古紙配合率15%再生紙」で作成しています。



坐ざ禅ぜん

坐禅は修行の根本です。背筋を伸ばして姿勢を正し、静かに息を整えて坐れば、心も自ずから正しくなり、み仏の徳がそなわります。

後 坐 生



坐禅中の僧堂内

朝ちよう課か

朝の坐禅が終わると、法堂で朝課（朝の読経）が始まります。東の空がほんのりと白みがかつた頃、修行僧の糸乱れぬ読経の声が一時間あまり永平寺の山内に響き渡り、参拝の皆様も共に心が清浄になる厳かな一時です。



朝課（法堂での朝の勤行）

行ぎよう鉢はつ

行鉢とは正式な作法に則り食事を頂くことです。永平寺の食事はいわゆる精進料理と言われる菜食で、食事も大切な修行となつていきます。



作さ務む

（掃除などの労働や作業）

永平寺の修行の中心は坐禅ですが、坐禅だけが修行の全てではありません。坐禅の精神を日常生活に展開していくことが大切なのです。毎日行われる廻廊掃除などの作業はいわば「動の坐禅」と言えるものです。



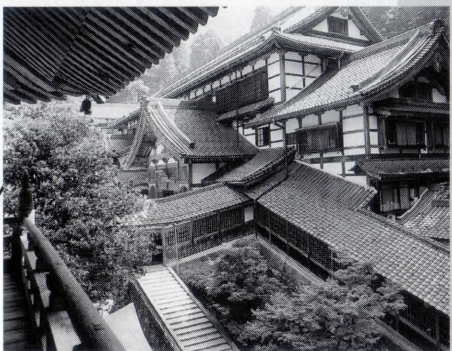
七堂伽藍

寺院の建物のことを一般に伽藍と呼びます。これは僧侶が修行をする清浄な場所という意味があります。この中でも特に七つのお堂は「七堂伽藍」と呼ばれ、日常の修行に欠かすことの出来ない重要な建物です。

「七堂伽藍」とは山門・仏殿・僧堂・庫院・東司・浴室・法堂のことで、特に僧堂・東司・浴室は三黙道場といって一切の私語は禁止されています。

◆法堂 (はつどう)

七堂伽藍の一番奥に位置し、説法や各種法要が行われます。



◆大庫院 (おほくらん) 食事を司る台所を始め、賓客の接待の間などがあります。



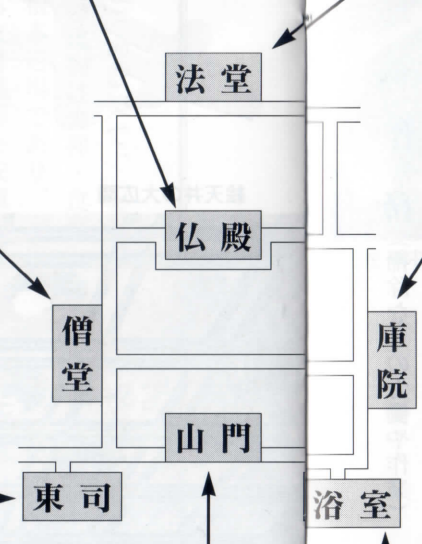
◆浴室 (よくしつ)

入浴は大切な修行であり、静寂の中で行われます。



◆仏殿 (ぶつでん)

七堂伽藍の中心に位置し、永平寺の御本尊、釈迦牟尼仏が祀られています。



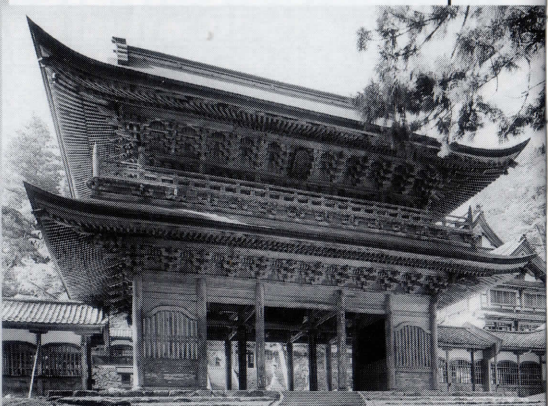
◆僧堂 (そうどう)

修行僧の根本道場で、坐禅・食事・就寝などが行われます。



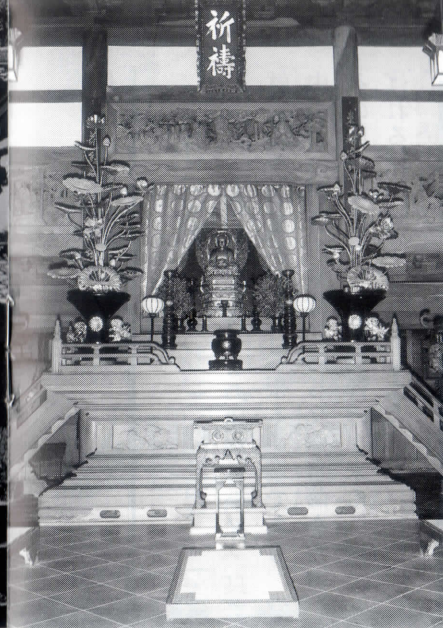
◆東司 (とうす)

お手洗いのことで、身心共に清浄となることを心がける道場です。



◆山門 (さんもん)

永平寺最古の建物で、三解脱門とも称せられ、仏の世界に入る関門です。福井県の文化財となっています。



仏殿内部

明治三五年（一九〇二）の改築で、中国宋時代様式の二重屋根と床は石畳となった大変美しい伽藍です。
 中央の須弥壇と呼ばれる壇の上には本尊の釈迦牟尼仏（お釈迦様）が祀られ、三体の仏像は向かって左側から過去・現在・未来の三世を現わしています。
 また欄間には禅宗の逸話が図案化された十二枚の彫刻がはめられています。



承陽殿



接賓

道元禅師七五〇回大遠忌の記念事業として平成一二年（二〇〇〇）の改築で、僧堂の裏にある建物を総称して呼んでいます。
 「接賓」とは、元々は賓客（修行に訪れた僧侶）を接待する意味から出た言葉ですが、現在は修行僧と、その指導に当たる役寮と呼ばれる指導者が生活・学習する道場です。

明治一四年（一八八一）の改築で、永平寺の御開山道元禅師の御真廟いわはお墓（お霊屋）であり、日本曹洞宗の発祥の根源として曹洞宗の聖地とでも言うべき場所です。

階段を登った奥の本殿は昭和五六年（一九八一）に改修されたもので、中央に御開山道元禅師の御尊像と御霊骨を安置して、左右に二祖孤雲懐奘禅師、三世徹通義介禅師、四世義演禅師、五世義雲禅師及び總持寺開山太祖瑩山紹瑾禅師の御尊像を祀っています。

階段の下、拜殿には永平寺歴住禅師の位牌が、左側には開基家の波多野義重公の御尊像や、道元禅師の生家である久我家の位牌、全国の曹洞宗寺院住職の位牌などが祀られています。

5 法堂

天保一四年（一八四三）に改築された、禪師様の説法の道場で、朝のお勤めなどの各種法要もここで行われます。
中央には本尊「聖観世音菩薩」をお祀りし、階段の左右には阿吽の白獅子が置かれています。
七堂伽藍の中で最も高いところに位置しますので、四季折々の美しい景色が眺められます。



聖観世音菩薩

6 大庫院

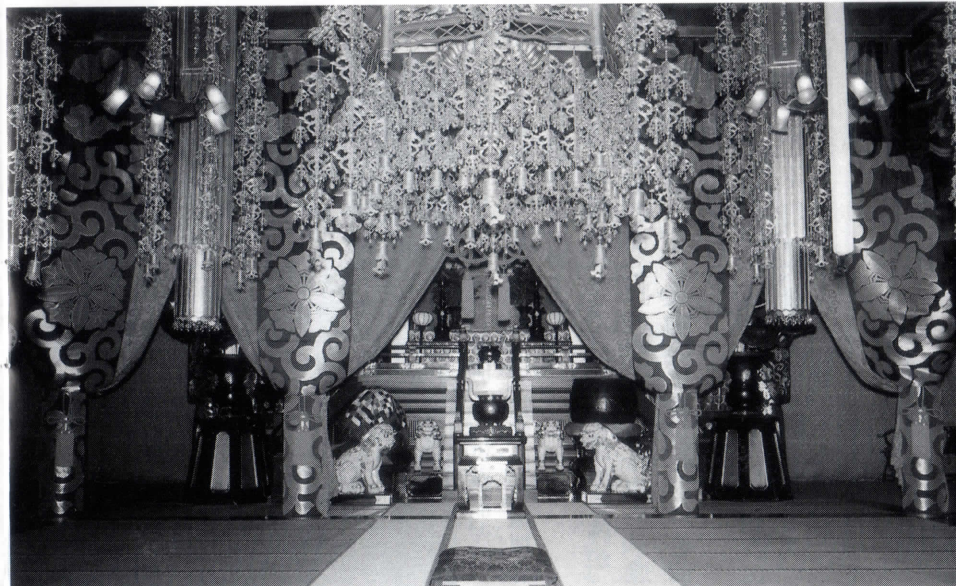
昭和五年（一九三〇）の改築で、一階には食事を作る典座寮と呼ばれる台所があり、玄関の正面には足の速いことで有名な韋駄尊天が祀られ、右側の柱には永平寺の名物「大すりこぎ」が掛かっています。二階は来賓接待の間で、三階には一五〇畳敷きの大広間「菩提座」があり伊藤彬画伯による襖絵があります。



韋駄尊天

7 浴室

昭和五五年（一九八〇）の改築で、水を因縁として悟りを開いたと言われる「跋陀婆羅菩薩」が祀られた浴場です。
入浴は作法に従って厳粛に行われ、水を大切に使い、身も心も清浄となるための大切な修行なのです。

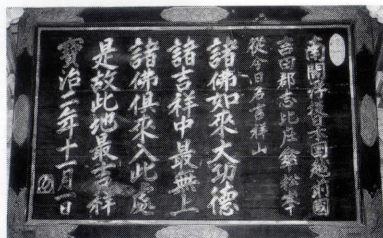


法堂内部



跋陀婆羅菩薩

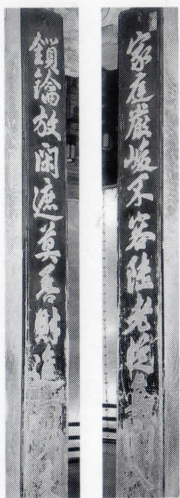
寛延二年（一七四九）に再建された中国唐時代様式の楼閣門で、両側には仏教の守護神である四天王が安置され、見上げると吉祥山永平寺



吉祥山の額

の命名の由来である「吉祥の額」が掲げられています。

山門二階には、五百羅漢が祀られていて、中央には後円融天皇の勅額「日本曹洞第一道場」が掲げられています。



昭和三八年（一九六三）の改築で、中に吊された「除夜の鐘」で有名な大梵鐘は重さが約五トンあります。

大梵鐘は一日に朝・昼・夕方・夜の四回修行僧が撞きますが、一撞きごとにお拝をして撞かれる梵鐘の音は、単なる行持の合図というだけではなく、聞く人全てに清らかな心の安らぎを与えてくれます。



鐘楼堂

祠堂殿は昭和五年（一九三〇）の新築で、一般の方々の納骨や供養などの法要が勤められています。堂内には全国の信者から納められた位牌が安置されています。

舍利殿は祠堂殿の奥にある納骨堂で文久三年（一八六三）の改築です。中央には「地藏菩薩」が祀られています。



祠堂殿

平成八年（一九九六）宮崎奕保禅師の発願で建立された、写経を納める塔です。

永平寺では納経いただいた方々の願意を込めて、毎朝のお勤めで祈願・供養をいたしております。



報恩塔（納経塔）

檀信徒・参禅者の
10 研修道場 吉祥閣

昭和四六年（一九七二）に檀信徒や参禅者一般の皆様の写経や研修をするための道場として建てられました。

鉄筋コンクリート五階建ての建物で、檀信徒のみならず広く一般の皆様に禅の修行を体験していただき、道元禅師の教えを実践するための道場です。



研修



参禅

主な年中行事

- 一月二六日 高祖道元禅師降誕会
 - (ご生誕の日)
 - 二月一〜七日 涅槃会 報恩大攝心会
 - (昼夜にわたる坐禅)
 - 二月一五日 釈尊涅槃会
 - (釈尊ご入滅の日)
 - 三月二一日 春季彼岸施食会
 - (お彼岸)
 - 四月 八日 釈尊降誕会
 - (釈尊ご生誕の日)
 - 四月二二〜二九日 報恩授戒会
 - (戒法を受ける修行)
 - 六月一〜二二日 眼蔵会
 - (道元禅師著「正法眼蔵」講義)
 - 七月 二日 大布薩会
 - (僧俗が懺悔する儀式)
 - 七月一〜十五日 盂蘭盆施食会
 - (お盆供養)
 - 九月二二〜二九日 御征忌
 - (道元禅師ご入滅に因んで行なう報恩供養) および秋彼岸
 - 一二月一〜八日 臘八大攝心会
 - (昼夜にわたる坐禅)
 - 一二月八日 釈尊成道会
 - (釈尊おさとの日)
- ★以上は一般在家の参詣や参禅ができる行事

11 瑠璃聖宝閣

平成一四年（二〇〇二）道元禅師七五〇回大遠忌の記念事業の一つとして改築した展示場と収蔵庫を兼ねた宝物館です。

国宝の「普勸坐禅儀」をはじめ重要文化財や、

書・絵画・書籍・器物などの永平寺に伝わる宝物数千点のほか、古文書も多数収められています。



瑠璃聖宝閣

道元禅師が、中国より帰国の後最初に著されたのが「普勸坐禅儀」（あまねく坐禅を勧める教え）で、坐禅の心得、作法を丁寧に説き示されています。

道元禅師御真筆 普勸坐禅儀 (国宝)

普勸坐禅儀

入宋傳法沙門道元撰

原夫道本圓了通乎假修證
宗乘自在何費功夫況乎
全體迥出塵埃孰信拂拭之
手段大都不離當處豈用
修行之脚頭然而毫釐重有

道元禅師七五〇回大遠忌の記念事業として平成十二年（二〇〇〇）に新たに整備されました。苑内には、道元禅師の父母の恩に報いる「父母塔」、出家の志を立てた姿を現わす「椎髪像」、明全和尚とともに中国に渡り如浄禅師と出会い正しい仏の道を得た恩に報いる「明全塔」と「如浄塔」など道元禅師の御二代が偲ばれる像塔がならび、またその奥は永平寺歴代住職のお墓になっています。



道元禅師椎髪像



寂光苑全景写真

か
わ
ら
し
の
う
瓦志納についてのお願い

永平寺は非常に雪の深いところです。そのため毎年多くの屋根瓦を取り替えなければなりません。そこで、永平寺では参拝の方々に、瓦修復の御志納金をお願いしております。

御志納頂ける方は、お帰りの節に一階の瓦志納受付処にお立ち寄りの上御協力をお願いいたします。尚、御志納金一口千円以上の方には記念品（大本山永平寺の文字の入った数珠、経本、月刊誌禅の友）を差し上げ、毎朝のお勤めの時に志納者の御先祖様の供養をいたしております。

御参拝者各位

大本山永平寺

は
ま
り
の
音
聲
へ

